三徳開教110年

法音

今月のご法話

感謝の心が起こす奇跡

平成29年
7月号 No.573

日蓮宗
法音寺

三徳開教110年

一人が一人を

是非一人は

是非一人は、仏となれる人に導きましょう。
法華経には、一人を導く功徳は広大であるとあります。
その一人が、他の人を導く功徳が又大きいのです。
ついに一人を導く人が仏となります。
一人を導く人が極楽に住む人となります。
一人一人が極楽に住む人、仏になるのです。

御開山上人御遺訓『おりにふれて』

月刊・法音

平成二十九年七月号［573］

■目次■

【信仰の指針】奇跡（きせき） 1
【朝のこない夜はない】
感謝の心が起こす奇跡　山首　鈴木正修 2
【特集】自説誓言　平成29年度御開山会 21
■講日のご案内 51
■有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください 52
■特別企画・聖の教え（十九） 54
■とこのはの記　優曇華の花 66
■読者の声　若松清一（豊川支院） 70
■得度の喜び 72
■のりのとも　西に東に　転法輪・支院だより 73
■福祉のひろば　ニコニコ子育て～保育の現場から～② 82
■福祉に生きる　特別養護老人ホーム・安立荘の実践 84
【特別寄稿】日本福祉大学付属高等学校
新入生、「建学の精神」を学ぶ 94
■幸せの種まき／編集後記 104
■連載まんが・ひまわり・55　ごほうび 105
■法音寺関連書籍のごあんない
■法音寺の社会福祉・教育事業

表紙題字・信仰の指針　山首上人さま　表紙写真・キキョウ

掲載写真　表紙・信仰の指針・3～20頁・51頁：梅田雅臣氏撮影
2頁・21～50頁：加納将人氏撮影

信仰の指針

奇跡（きせき）ありがたいと思えますか

日教区

サクランボ

朝のこない夜はない

山首　鈴木正修

感謝の心が起こす奇跡

『週刊文春』に町山智浩さんの『言霊ＵＳＡ』というエッセーがあります。その中で、アメリカの現政権のペンス副大統領の話が紹介されていました。

アメリカはキリスト教を信仰している人が非常に多く、中でもキリスト教福音派（プロテスタント）の信者さんが全人口の四分の一ほどもいるそうです。ペンスさんも非常に熱心な福音派の信仰者だそうです。トランプ大統領は、この福音派の人たちの票を自分の陣営に取り込むためにペンスさんを副大統領にしたということです。

以前、ワシントンポストのインタビューでペンスさんが、結婚生活を長く維持する秘訣を聞かれ、「妻以外の女性とは食事をしたり、お酒を飲んだりしないことです」と答えたそうです。浮気や、それにつながること、疑わしいことはしな

い、ということでしょう。至極まっとうな答えのような気がしますが、これに対してフェミニストの女性たちは「女性差別だ」と批判しました。「普通、会社などではランチやディナーをともにして親睦を深める。そこで良い意見が出ることが多々ある。その場に女性を一切入れないというのか」「重要な役職に女性を就けないつもりか」「女性は妻か母であるべきで、社会に出てはいけないのか」など、極端な批判が出てきました。一方「ペンスさんは非常に真面目な男性で、ただ思っていることを普通に答えただけじゃないか」「厳格なユダヤ教の人だってイスラム教の人だって同じことを言うと思う。ただ副大統領という立場だからといって批判されるのはかわいそうだ」という意見もありました。

お釈迦さまは「どんな人物でもほめ続けられる人もいないし、けなし続けられる人もいない」とおっしゃっていますが、ただ「奥さんと一緒に食事をする。他の女性とはしない」と言っただけでこれだけ批判されるのですから、〝世の中には

色々な見方があるものだ〟とつくづく思いました。
ただペンスさんも〝妻以外の女性とは二人きりでは食事をしません〟とでも付け加えておけば良かったのかもしれませんが。

今回はものの見方のお話です。
四年前に亡くなった精神科の医師で、作家でもあった、なだいなださんの書かれた文章を読んだ時に〝立場の違いによって見方は違うものだ〟と思いました。医師の資格を持つ作家は珍しくありません。精神科医の作家が特に多いのは、人間洞察に優れているからではないかと思います。
なださんが若い頃、精神科の病院に勤務している時に「私は天皇である」という患者さんが三人いたそうです。その中で「春日天皇」を自称する人がおもしろい人で、その人は年末になるとお医者さんや看護師さんたちにボーナスをくれたそうです。と言っても、紙に金額を書いて渡すだけですが、

なださんももらいました。〝5万円〟と書いてありましたので、他の人がいくらもらったのかが気になって看護師さんたちに聞いてみると、ある看護師さんは「18万円もらいました」とのことでした。なださんの3倍以上です。さらに、勤め始めて間もない准看護師さんが「私は30万円でした」と言ったのを聞いて、なださんは医者である自分が5万円で准看護師が30万円なのが納得できず、春日天皇のところに行き、「ボーナスのことですが、どうして私が5万円で、あの准看護師が30万円なのですか？」と聞きました。すると「これは私的なボーナスで、病院で出すボーナスとは違うので気にしないでください」と言うので、再び「それはわかっています。でもどうして私が5万円で…」と聞くと、「先生は私に何をしてくれましたか」と言われました。そこで、「私は主治医で、あなたの治療をしているのは私ですよ。私が処方箋を出して、その薬をあなたは飲んでいるじゃないですか。病院で一番大事なことをしているのは私ですよ」と言うと、「そんなこと

はわかっています。でもあの薬は要りません。飲みたくないのです。そもそもあの薬は効きますか。もし効くのなら私はとっくに退院していますよね」と言われてしまいました。

なださんは返答できなかったそうです。確かに薬は効くのですが、それは春日天皇という妄想癖を治す薬ではなく、ただ精神を落ち着かせるための薬だったのです。

なださんの「どうして准看護師のあの人が30万円なのですか」という問いに春日天皇は答えました。

「あの人は優しいんですよ。私が風邪をひいて熱を出した時、氷枕を作って持ってきてくれたんですよ。うれしかったな。ありがたかったな。その後にお粥まで作ってきてくれたんですよ。だから、ボーナスを30万円あげたんですよ」

なださんは言われます。

「〝看護師よりも医者の方にたくさん給料をあげる〟というのは病院側のものさしです。でも春日天皇は医者や看護師を評価するものさしを自分でしっかり持っていたんです。いろ

んな評価のものさしがあることを私は春日天皇から教わりました」

どんな仕事でも利用される方の見方を重視しなければと思います。

ものの見方は人それぞれですが、新渡戸稲造博士は次のように言われます。

「物事には必ず『明・暗』の両面があるが、私は光明の方面から見たい。そうすれば自ずと愉快な念がわいてくる。人が生涯の中で遭遇する物事は善意にも悪意にも解せるものが多く、ものそのもの、ことそのこと自体は絶対的に善でもなく悪でもないことが多い。従って、人生なるものはめいめいの心の置きよう、すなわち心の持ちようによってどうにでも取れる。〝世の中うるさい〟と思えば、いたたまれない程にうるさいし、〝結構だ〟と思えば、お礼の申し上げようのない程結構になる。故に私は、世に処するに善意を以てし、〝チ

アフル〟に世渡りしたい」

〝チアフル〟とは〝愉快な顔をする〟ということです。いつどんなことがあっても愉快な顔をしていたいと言っておられるのです。

新渡戸博士の『武士道』は有名ですが、私たちが読むのは英語で書かれたものの翻訳です。博士は37歳の時にこの本を書かれましたが、実は35歳の時に大病をされています。医師に「完治するには8年か9年ぐらいかかる」と言われたそうです。35歳で〝そんな長期の療養生活をしなければいけない〟となると普通なら絶望するものですが、それを新渡戸博士は〝チアフル〟で乗り越えられたのです。

「病気も修養の種にすればよい。病から得るものもあるはずだ。今、自分は人生の半ばに来てひと休みさせてもらうのだ。そう考えればよい」

ものの見方を見事に変えられたのです。

このような気持ちで療養生活を送っていたところ、一年で治ってしまったと言います。その一年後に『武士道』を書き上げられたのです。心の持ちようで病気も克服できるということです。

究極の明るい見方、それは〝感謝〟だと思います。何にでも感謝をすることが一番明るいものの見方だと思います。

去年の『法音』4月号に工藤房美さんのことを書きました。工藤さんは40歳を過ぎて末期の子宮がんになり、その病は治ったのですが、今度は末期の肺がんと肝臓がんになってしまいました。そのレントゲンを見た瞬間に主治医は「今、あなたが生きているのが不思議でしょうがない。この瞬間、倒れて亡くなっても不思議ではない」と言ったそうです。

その工藤さんは、それから十数年経っても元気に暮らしていらっしゃいます。手術も何もしていないのですが、がんが消えたのです。どうやって克服したかというと「ありがとう」

と言い続けたのです。自分の体の細胞の隅々にまで「ありがとう」と言い続けたのです。そしてがん細胞にも言い続け、そのうちにすべての縁ある人、物事に「ありがとう」と言い続けられるようになったのです。すると知らないうちにすべてのがんが、骨転移していたものまでが消えていたのです。その体験を『遺伝子スイッチ・オンの奇跡』という本にして出されました。

この本が出版されると、工藤さんが経営する熊本のカレー屋さんに、がんで同じように苦しむ人が「一度話を聞きたい。体験を聞きたい。会いたい」と訪ねてくるようになりました。そして、末期がんの人も工藤さんに会うと、多くの人が治ってしまうというのです。その話が2冊目の本『「ありがとう」百万回の奇跡』に書かれています。

「この本を書いてくださった工藤房美さんにどうしてもお礼

が言いたくて来ました」

その人は涙で声が震えていたそうです。

「私は『遺伝子スイッチ・オンの奇跡』を8回読みました。何度も声に出して読みました。毎回違った気づきをもらいました。8回読んで8個の気づきをいただいたのです。80年間生きてきて、これほど感動して泣いたことはありません。人生で初めてのことです。8回目を読んで8個目の気づきをいただいたとき、涙が止まらなくなりました。泣いて、泣いて、涙が枯れるのではないかというくらいに泣きました。よくこれほど涙が出るものだというくらい泣いたのです。次の週に病院に検査に行きました。実は私は末期がんを患っていたのですが、そのがんが、なんとすべて消えていました。私にも奇跡が起きました。私は自分の人生をもう一度生きるチャンスをいただきました。本当にありがとうございました」

名古屋から工藤さんに会いに行かれた方もいます。工藤さ

んに会って元気になったのですが、その二カ月後に「おしっこが出なくなった」という連絡がありました。そこで工藤さんは「〝ありがとう〟と同時に〝大丈夫〟を一日千回言ってください」と言われました。それから二カ月くらいして、また電話がありました。

「おしっこが自力で出るようになりました。ありがたいです。トイレに行くたびに〝本当にありがたいなぁ〟と思うのです。トイレに対する感謝の気持ちが湧いて、おしっこをするたびにトイレを掃除するようになりました」

　そのトイレは自宅のトイレではなく、病院のトイレです。

「トイレの掃除をしながら、このトイレでおしっこをする人に対して〝皆さんもおしっこが出て良かったですね〟という思いになりました。トイレに感謝をするとともに、病院で同じようにおしっこをしている人に対して〝良かったですね〟と祝福するような気持ちになりました。ほとんど寝たきりだった私なのに毎日毎日病院のトイレ掃除をしていたら気分が

良くなって、掃除を始めてから一カ月くらい後に検査をしてもらったらがんが全部消えていたのです」

工藤さんの本にはこのような話がたくさん載っています。

工藤さんは言われます。「明日はないかもしれないと思い、今生かされていることに心から感謝する。感謝を感じている時、最高に幸せでした。するとまた〝ありがとう〟と出てきます。感謝の気持ちはそうやってどんどん膨らんでいきました。感謝が感謝を呼ぶのです」

「十二年間唱えてきた百万回を超える〝ありがとう〟は、私がたくさん着込んでいた上着（お金、学歴のような外的幸せ）を一枚一枚脱がせてくれたと思います。これが自分だと思っていたものすべてをそぎ落した時、最後に残った私の本質の部分、それは光でした。その光のことを魂と言うのかもしれません。その光はサムシング・グレート（神仏のような存在）が創造した宇宙の一部分です。私の〝ありがとう〟は私自身

の本質への感謝でした。私の本質、つまり宇宙に対する感謝でした。私はいつの間にか、宇宙とつながっていました」

この後、工藤さんは、とても不思議な体験をたくさんしておられます。

「おーい、久しぶり。会いたかったよ」と会ったこともない人から言われることが多くなったそうです。この会ったこともない相手のほとんどが、障がい者の方だそうです。

ビュッフェスタイルのレストランで工藤さんが、三十代後半ぐらいの障がいを持つ男性と交わした会話です。

「本当に久しぶりね。私も会いたかったわよ。元気だった？」

「うれしいな。本当にうれしいな。久しぶりに会ったからたくさん話がしたいよ」

「せっかく私のレストランに来たのだから、まず料理を食べてね」

「どれもおいしくなさそうだ」
「あらそう、どうして？」
「あのね、世の中で一番おいしいごはんは、お母さんが作ってくれたご飯なんだよ」

それを聞きながら七十代くらいのお父さんらしき人が、人目もはばからずオイオイ泣き始めたそうです。そして、工藤さんに対して「一体あなたは何者なんですか？」と言いました。

「息子は昔からあなたを知っているようにうれしそうに話しかけていましたが、私は驚きました。目の前で起こっていることが信じられないのです。息子が誰かと会話するのを初めて見ました。息子は重度の自閉症で、会話ができないのです。私や家内とも話したことはありません」

その時、お母さんは付き添っていなかったのですが、「『お母さんの料理が一番おいしい』という言葉をぜひ伝え

たい」とお父さんは言われたそうです。

さらにお父さんは「今まで、この子は普通じゃないと思っていました。障がいがあるのでかわいそうだと思っていたのです。私たちの言葉を理解することもできないし、まるで違う世界に生きているようだと思っていました。でもそれは私の思い違いですね。この子は普通の人と何ら変わらないんですね」と言われたそうです。

またある日、工藤さんが電車に乗っていると、目の前に臨月に近い妊婦さんが座っていました。

その妊婦さんのお腹の中の子どもに「あなたは七十兆分の一の奇跡的な確率で、もうすぐこの地球に生まれてくるんだね。おめでとう。あなたはここでどんな体験をしたいのかな。どうかこのお母さんと思い切り人生を楽しんでくださいね」と思い、メッセージを送ったそうです。するとふと、男の子の顔が浮かび、その子が話しかけてきたと言います。

「あのね。今から僕は生まれてくるんだけど、お母さんに伝えてください。僕は障がいを抱えて生まれます。だから、大好きなお母さんは僕と一生会話をすることはできません。僕は僕の気持ちをお母さんに伝えることはできないのです。だからお母さんに今、伝えてください。〝大好きなお母さん。僕はお母さんをとてもとても愛してるよ〟って」

「伝えてください」と言われてもいきなりそんなことは言えないものです。でも、〝こんな重大なメッセージを託されたので、どうにかしないと〟と思い、工藤さんは「お腹が重たそうですね。予定日はいつですか」と声をかけました。するとそのお母さんは「もうすぐ生まれてくるんですよ。実はこの子、障がいをもって生まれてくるんです。検査をしてお医者さんから言われたのです」と言ったのです。

お母さんがお腹の子に障がいがあることを知っていることがわかり、工藤さんは思い切って伝えることにしました。

「あなたが信じるか信じないかはわかりませんが、実は先ほどあなたの息子さんが私に〝自分は障がいをもって生まれてくるのだ〟と話してくれました。そして〝お母さんにメッセージを伝えてほしい〟と言っています。そのメッセージをお伝えしてもよろしいですか」

妊婦さんは身を乗り出して言いました。

「お願いします。教えてください。しかし、なぜ男の子だとわかったのですか。確かに産婦人科の先生は男の子だと言われましたが…」

「男の子の顔が浮かんできたのです。…あなたの赤ちゃんは私にこう言いました」

『僕はもうすぐ生まれるのだけれど、障がい児として生まれます。お母さんは僕と一生会話をすることはできないでしょう。だからお母さんに伝えてください。大好きなお母さん、僕はお母さんをとてもとても愛しているよ』

その妊婦さんは電車の中で顔を覆って泣きくずれたそうです。そして別れ際に「障がい者としてこの子を育てる中で、辛いこともたくさんあることでしょうが、この子からの今の言葉だけで私は一生幸せに生きていけます」と言われたそうです。

工藤さんは〝ありがとう〟という言葉の力で特別な存在になられました。私たちにはお題目もあります。本当にありがたいことです。

良い教えの話を聞きましょう。
全国の法音寺各支院・布教所では毎月の講日の中で
三徳の教えを聞くことができます。
ぜひ講日にご参詣いただき、
教えを心にしみ込ませましょう。
法音寺本山は毎月7日、17日、27日が講日です。

❖今月の山首上人さまご親修日程

和泉支院	7月2日(日) 講日	岐阜支院	7月4日(火) 盂蘭盆会
三原支院	7月9日(日) ほうろく加持	四日市支院	7月13日(木) 盂蘭盆会
京都支院	7月20日(木) 講日	東京支院	7月22日(土) ほうろく加持

有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください。

支院名	今月の講話日	住所	電話番号
大乗山泰明寺	5日・20日	名古屋市中村区名駅2－37－3	☎〈052〉581－2069
開基堂	10日	江南市寄木町天道18	☎〈0587〉53－5436
東京支院	2日・16日・22日・29日	東京都練馬区谷原2－6－37	☎〈03〉3904－1251
山形布教所	10日	山形市長町2－4－6	☎〈023〉681－0770
静岡支院	2日・12日・22日	磐田市城之崎4－7－3	☎〈0538〉32－6625
豊川支院	4日・20日	豊川市中野川町1－26－3	☎〈0533〉86－4704
安城支院	9日・18日・28日	安城市新田町小山31－25	☎〈0566〉76－2504
明川支院	11日・22日	豊田市明川町堂ノ脇1－2	ご連絡は本山寺務局へ
佐屋支院	4日・9日・24日	愛西市大井町浦田面296	☎〈0567〉32－1825
一宮支院	5日・15日・25日	一宮市大江1－7－4	☎〈0586〉72－7208
西春支院	2日・12日・22日	北名古屋市九之坪東ノ川20	☎〈0568〉22－5813
岐阜支院	4日・12日・18日・24日	岐阜市切通7－15－22	☎〈058〉245－2939
笠松布教所	12日	岐阜県羽島郡笠松町八幡町23	☎〈058〉388－2740
大垣支院	1日・11日・21日	大垣市宝和町5	☎〈0584〉78－4854
関支院	3日・13日・23日	関市西福野町2－15－11	☎〈0575〉22－0776
平賀支院	5日・15日・25日	関市市平賀213－2	☎〈0575〉23－3771
郡上八幡支院	8日・22日	郡上市八幡町小野721－3	☎〈0575〉65－3933
四日市支院	3日・13日・22日	四日市市赤堀2－4－7	☎〈059〉352－3633
上野支院	1日・11日・21日	伊賀市上野向島町3475	☎〈0595〉21－0127

京都支院	1日・9日・20日	京都市上京区北横町360	☎〈075〉231-3437
高槻支院	2日・21日	高槻市天神町1-9-2	☎〈072〉685-1003
大阪支院	9日・23日	大阪市此花区西九条3-4-41	☎〈06〉6465-5051
福井布教所	8日・15日	あわら市春宮3-28-2	☎〈0776〉73-5234
和泉支院	2日・14日・22日	大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺404	☎〈0724〉66-3112
神戸支院	8日・21日	神戸市兵庫区五宮19-17	☎〈078〉360-4884
淡路支院	5日・25日	南あわじ市神代国衙910	☎〈0799〉42-0175
岡山支院	2日・7日・23日	岡山市南区若葉町1-16	☎〈086〉262-0818
高知布教所	12日	高知市上町5-5-39	☎〈088〉823-1983
福山支院	1日・16日	福山市西町3-19-5	☎〈084〉921-3078
三原支院	9日・23日	三原市皆実2-9-22	☎〈0848〉62-5087
安芸津支院	1日・23日	東広島市安芸津町三津3765-3	☎〈0846〉45-4012
坂支院	8日	広島県安芸郡坂町坂東2-24-12	☎〈082〉885-1064
福岡支院	2日・15日・16日	福岡市早良区城西2-11-37	☎〈092〉821-7975
壱岐布教所	13日・23日	壱岐市石田町池田東触1112	☎〈0920〉44-5445
筑後布教所	9日・24日	筑後市大字西牟田5954-1	☎〈0942〉53-7273
天草布教所	1日	上天草市大矢野町維和1502-1	☎〈0964〉58-0742
田川支院	9日・23日	田川市春日町7-30	☎〈0947〉42-1819
名古屋地区	7日・17日・23日・27日・30日	名古屋市昭和区駒方町3-3	☎〈052〉831-7135
瀬戸布教所	9日・19日・29日	瀬戸市東本町2-20	☎〈0561〉85-6860
亀岡布教所	10日・23日	亀岡市篠町篠牧田73-1	☎〈0771〉25-7807

※開始時刻等については、それぞれにお問い合わせください。（掲載順不同）

特別企画

聖の教え（十九）

先祖供養の事

◆安立大法尼　我ら救済会員は、祖先の恩を忘れぬようにしましょう。我々は祖先の分身であります。我々の斯くして暮らすについては、すべてこれ、祖先の苦心の賜物なることを忘れてはなりません。常に祖先のため、一心に妙法蓮華経を唱えましょう。故人はたとえ、地獄・餓鬼・畜生道にあるとも、妙法の功徳にて、下界の苦悩から逃れられます。これが、祖先に対する第一の孝養です。

始祖・御法話集　五頁

◆御　書

◇儒家の孝養は今生に限る、未來の父母を扶けざれば、外家の聖賢は有名無實なり。外道は過未を知れども、父母を扶くる道なし。佛道こそ父母の後世を扶くれば、聖賢の名はあるべけれ。然れども法華經已前等の大小乘の經宗は、自身の得道猶叶いがたし、何に況や父母をや、但文のみ有て義なし。今法華經の時こそ女人成佛の時、悲母の成佛も顯われ、達多の惡人成佛の時、慈父の成佛も顯わるれ。此の經は内典の孝經なり。

開目鈔・下　八一七頁

◇涅槃經に云く、『死人に閻魔王勘えて四十九の釘を打つ。先づ目に二、耳に二、舌に六、胸

に十八、腹に六、足に十五打つなり。各長一尺なり。』取意　而るに娑婆に孝子有て、彼の追善の爲に僧を請ぜんとて人を走らしむる時、閻魔王宮に此の事知れて先づ足に打ちたる十五の釘を抜く。其の故は佛事の爲に僧を請ずる功德の初めなる間、足の釘を抜く。爰に聖靈の足自在なり。さて僧來りて佛を造り御經を書く時、腹の六つの釘を抜くなり。次に佛を作り開眼の時胸の十八の釘をば抜く。さて佛を造り奉り、三身の功德を讀み上げ奉りて生身の佛になし奉り、冥途の聖靈の爲に說法し給えと讀み上候時、聖靈の耳に打ちて候いし二つの釘を抜くなり。此の佛を見上げまいらせて拜む時に、眼に二つ打ちたる釘を抜き候なり。娑婆にて聖靈の爲に題目を聲をあげて唱え候時、我が志す聖靈も唱うる間、舌に六つ打ちて候いし釘を抜き候なり。而るに加樣に孝子有て迹を訪らえば、閻浮提に佛事をなすを、閻魔法王も本より權者の化現なれば、是を知りて罪人に打ちたる釘を抜き免して候なり。後生を訪らう孝子なくば、何れの世に誰か抜きえさせ候べきぞ。其の上わづかのをどろのとげの立ちて候だに忍び難く候べし。況や一尺の釘一つに候とも悲しかるべし、まして四十九まで五尺の身に立てては、何と動き候べきぞ。聞くに肝を消し、見るに悲しかるべし。其れを我も人も此の道理を知らず。父母兄弟の死して候時、初七日と云うことをも知らず。まして四十九日百箇日と云うことをも、一周忌と云うことをも、第三年と云うことをも知らず。訪わざらん志の程淺猿かるべし。聖靈の苦患を助けずんば不孝の罪深し。惡靈となりて碍げをなし候なり。

回向功德鈔　一二四頁

◇信心疎かにして、三途に墮して重苦を受けん時、悔ゆるとも益なかるべし。譬えば網にかかる鳥の高く飛ばざる事を悔ゆるが如くなるべし。さても罪人妻子の追善、今や今やと待つ處に追善をこそせざらめ。還って其の子共跡の財寶を論じて種種の罪業を致せば、罪人彌苦を受く。哀れ娑婆にありし時は、妻子の爲にこそ罪業を造りて、今かかる憂きめを見るに、少しの苦を輕うする程の善根をも送らざること恨み限りなし。貯え置きし財寶一つだにも今の用にはたたざりけりと、一方ならぬ悲さに泣き叫ぶこそ哀れなれ。大王是を御覽じて、汝が子供不孝の者なり。今は力及ばずとて地獄に墮さる。又追善をなし、逆謗救助の妙法を唱え懸れば成佛するなり。されば大王も歡喜し給い、罪人も喜ぶこと限りなし。

十王讃歎鈔　五九頁

◇凡そ身體髪膚を父母に受け、撫育慈愛を厚く蒙る身の親の菩提をば祈らず。剰え種種の惡業を造りて亡者に苦を添えんこと、返す返す淺間敷ことなるべし。これ豈酉夢が父を打ち、娡紳が母を詈りし罪に劣らんや。必ずしも天雷其の身を割き、靈蛇其の命を吸うに非ずとも、後報何ぞ免れんや。されば孝行を先として追善を致すべし。唐に叔雄と云う者は、身を投げて孝養を致しき。それまでこそなくとも信心の歩みを運び、何ぞ彼の菩提を祈らざらんや。孟宗が雪の中の笋、王祥が冰の上の魚、是は孝の志を感ずる所なり。況んや、孝養を致す家には梵天・帝釋・四大天王住し給うと云えり。是は正しく如來の金言なり、誰か是を疑わんや。然れば此

の如き輩は皆諸天の擁護を蒙る者なり。但し孝養に三種あり。衣食を施すを下品とし、父母の意に違わざるを中品とし、功徳を回向するを上品とす。存生の父母にだに尚功徳を回向するを上品とす。況んや亡親に於てをや。雪中の笋何かせん、法喜禪悅食の味には如かじ。叔雄身を投げても更に出離生死の便りにはならず。只善根を修して父母の得脫を祈るべし。

十王讃歎鈔　六八頁

◇盂蘭盆と申すは、源目連尊者の母青提女と申す人、慳貪の業によりて五百生餓鬼道に墮ち給いて候を、目連救いしより事起りて候。然りと雖も佛にはなさず。其の故は我が身未だ法華經の行者ならざる故に、母をも佛になす事なし。靈山八箇年の座席にして法華經を持ち、南無妙法蓮華經と唱えて多摩羅跋栴檀香佛となり給う。此の時母も佛になり給う。又施餓鬼の事仰せ候。法華經の第三に云く、『飢國より來って、忽ち大王膳に遇うが如し』云云。此の文は中根の四大聲聞の醍醐の珍膳を音にも聞かざりしが、今經に來りて始めて醍醐の味を飽までに嘗めて、昔飢えたる心を忽ちに息めし事を說き給う文なり。若し爾らば餓鬼供養の時は此の文を誦して、南無妙法蓮華經と唱えて弔い給うべく候。　四條金吾殿御書　六九〇頁

◇惡の中の大惡は我が身に其の苦を受くるのみならず、子と孫と末七代までもかかり候いける

なり。善の中の大善も又又かくの如し。目連尊者が法華経を信じまいらせし大善は、我が身佛になるのみならず父母佛になり給う。上七代下七代、上無量生下無量生の父母等、存外に佛になり給う。乃至子息・夫妻・所從・檀那・無量の衆生・三惡道を離るるのみならず、皆初住妙覺の佛となりぬ。故に法華經の第三に云く、『願わくば此の功德を以て、普く一切に及ぼし、我等と衆生と皆共に佛道を成ぜん』云云。

盂蘭盆御書　一五四九頁

◆安立大法尼

祖先の恩　よく世間では、死去した人々が草葉の陰から守ってくださるといいますが、草葉の陰には何がいましょう。虫や、蛇や、蛙でしょう。この境涯にあってどうして守護ができましょう。極楽には草など一本もありません。守護して頂く方は諸仏善神です。まず諸仏善神に守護して頂かなくては、何事もできません。

では、諸仏善神に守護せられるにはどうしたらよいでしょうか。

第一に慈悲深く、何事も至誠を以って臨み、〝自分は大人である。無理を言う者は子どもである。可哀想だ。気の毒だ〟と思って、決して腹を立てないようにします。即ち堪忍をして、行住坐臥、道を歩む時も仕事をする時も、南無妙法蓮華経と唱えるのです。その功德によって、漸次悪魔を遠ざけることを得て、諸仏善神の守護を受けることができます。そうすると、ます

ます悟りがよくなり、咄嗟の災難も逃れることができます。大難は小難、小難は無難ともなるのです。斯くて自然と早起きもでき、身体も丈夫になり、段々よく働けるようにもなるのです。

斯くの如く、諸仏善神に守護せらるると魔神に守護せらるるとは、大いなる差があります。如何にしても幸福と栄達を期し、未来に極楽を願う人は、諸仏善神に守護せられるよう、功徳を積みましょう。

始祖・御法話集　六頁

◆宗玄大徳

先祖の追善供養　仏教を信ずる人々は毎年盆祭りと称し、七月十五日に亡き人々の供養をするをもって、年中行事の一としているのであります。また人の死して、初七日、二七日、三七日、四七日、五七日、六七日、七七日に至るまでの間、その後に至りては、百か日、一周忌、三回忌というように、忌日に当たりてその遺族は追善供養をするのであります。その家の子孫として、これほど結構なこと、麗しいことはないのであります。しかしながらこの供養は、今日全く形式のみに留まり、真の追善供養となっていないのではないかと、私はいささか疑いを抱く者であります。

そもそも追善供養と申すは、いかなることが真の追善となるのでありましょうか。

法事供養と言えば、必ずや、僧侶の読経はこれに伴うのであります。そうして後に、親類・

知己に精神的の饗応をするのが例であります。然るに、読経をして、その供養に集まられし人々はどんな心持ちでこれを聞かれるのでありましょうか。私は二、三の人に、読経は誰のためにするのでしょうかと尋ねましたところ、異口同音に「亡き人のため」と答えられたが、私は、これは大いなる間違いと思います。

経とはいかなるを指して言うのでしょうか。言うまでもなく、教主釈迦牟尼世尊一代の説法の記録であります。その意は、手段を設け、譬喩を以って、かくすれば苦の源である、かくすれば善の基であるとか、いずれも人類日常の行為について細々と修養法を示された、最も貴重なる修身書であると思いますが、いかがでしょうか。その修身書は、亡き人がこれを聞いたとて何となりましょう。これは人々が聞いて修養し、初めて効果があるのであります。それに亡者の霊に聞かせて追善とせんとし、あるいは集まりし親類・縁者の人々に理解のできない漢文で経を読み下し、加えるに、最も早口にこれを唱えて、多く読めば多く追善となると思って、口早に読むのであります。

経文、すなわち釈尊の説法は、わずかにてもこれを聞く人々に理解できるよう読み上げ、しかる後、一同にその意味を説明して、老若男女の定めなく、一度は黄泉の旅にも趣かなければならないことや、この肉体を持てる間に常に善根を積みて人生を楽土とし、未来世をも善処となるべき源を造らねばならぬことが人としての本分であるという意味や、善因を積まざるのみ

か、剰え悪の種を蒔くことは末恐ろしいことであると、仏の教えを説き聞かせなければならぬのであります。かように話せば、これを聴いた者は自ら日常の心遣いを反省して、善き道に進むのであります。かくして善人ができたなれば、これこそ〝世界中の人々が欲する衣食住を八十年の間施す功徳よりも、一人の善人を造りし功徳は、はるかに優れたること幾千万倍なり〟と仏の仰せられた如く、実に無量の功徳を得られるのであります。この功徳を亡き人々に追善して冥福を祈ることこそ、真の供養と思います。

村上先生御法話集（一）　八五頁

◆御開山上人

盂蘭盆会の意義　昔、お釈迦さまのお弟子に、目連尊者という方がありました。目連尊者のお母さんを青提女と申します。その時お母さんが亡くなっておられたので、お母さんはいかなる境遇におられるかと、天眼通でご覧になりました。お母さんは思いもよらぬ、餓鬼道というところで、食もなく痩せ衰えた姿で、画に書かれている餓鬼そのままの姿でありました。

「餓鬼道と申す所に我が母あり。飲む事なし食うことなし。皮は金烏を毟れるが如く、骨はまろき石を並べたるが如し。頭は毬の如く、頸は絲の如し、腹は大海の如し。口をはり手を合せて物を乞える形は、餓えたる蛭の人の香を嗅げるが如し」（盂蘭盆御書）という、まことに見るも気の毒のような有様でありました。

目連尊者は、ただちに神通力で以って、一椀のご飯を贈られたのです。お母さんは、喜んでその一椀のご飯を召し上がろうとせられるや、ご飯の上から炎が上がり、その炎のためにお母さんはご飯も食べられません。目連尊者は、神通力を以って大雨を降らせられたということですが、その雨は火に注いだ油の如く燃え上がって、お母さんは火達磨の如く、七転八倒の苦しみでありました。目連尊者ではいかんとも手の施す術はありませんでした。

目連尊者は、お釈迦さまの前へかけつけて、救いを求められたのです。

お釈迦さまは、「それは可哀想だ。しかし汝には、亡き父母を地獄の苦しみより救うことは教えてなかったのだ。七月十五日には、人を救い助ける聖僧の集まりがある。汝の真心をもって、聖僧に食べ物の供養をなさい」

と申されました。

目連尊者は大いに喜び、七月十五日に百味の御食を以って聖僧の供養をいたしましたところ、目連尊者のお母さんは、一劫という長い間の餓鬼道に苦しまなければならぬ罪が除滅せられたということです。

続・現代生活の指針　一五六頁

◆日達上人

お盆とお施餓鬼

お盆について、こんなことを言われた方があります。

「亡くなった人に会える機会を作って下さったことに感謝しよう。そして、亡くなった人たちに喜んで頂ける、楽しいお盆にしよう。せっかくお帰り下さるご先祖さまを悲しませ『もう二度と帰りたくない』と思われない家庭にしよう」

お盆に限らず、家族が毎日仲良く暮らすことが、教えの基本であります。家の中がギクシャクして、親子・夫婦がいがみ合っていたら、ご先祖さまも〝もう来年は帰るのはよそう〟と思われるに違いありません。そういうことのないよう、心温かなお盆にしたいものであります。

ご先祖さまをお迎えするために、掃除をし、お供え物を用意しますが、同時に、家の中を極楽にすることが、生きている私共の大切な心得であります。

「盆施餓鬼」と一口に言いますが、お盆とお施餓鬼は違います。お盆は目連尊者が主役で、お施餓鬼は阿難尊者が主役であります。

ある時、阿難尊者がうたた寝をしていると餓鬼が現われて、〝お前は三日の内に死ぬ。そして、私と同じようなみにくい餓鬼に生まれ変わるだろう〟と言います。驚いて阿難尊者はお釈迦さまに助けを求めます。お釈迦さまは〝その餓鬼をはじめ、餓鬼界で苦しむ人々に施しをしなさい〟と言われます。そこで阿難尊者は大勢の餓鬼に食べ物を施します。その功徳によって、寿命を延ばすことができました。

〝それは阿難尊者のこと〟と言っていたら、仏教は自分から離れてしまいます。もし自分が

〝あと三日の命〟と言われたらどうするか、それを考えてゆかなければなりません。お釈迦さまは、そんな時の心構えとして次のようなことをおっしゃっています。

「第一の矢は受けても仕方がないが、第二の矢は受けないようにしなさい」

矢が体に当たった時〝この矢は誰が射たのか。どこから飛んで来たのか。何で出来ていて、どんな毒が塗ってあるのか。それがわからない内は抜いてはいけない〟などと言っていたら毒が回って死んでしまいます。まず矢を抜いて、手当てをしなければなりません。

ここで言う第一の矢とは、〝あと三日で死ぬ〟と言われたことです。第二の矢は、それを聞いて〝死ぬのはいやだ〟と苦しみ、悩むことです。

私共の現実に置き換えると、病気に罹り、お医者さまから〝ガンです〟と言われることかも知れません。言われた方は大変です。ガクッとくるでしょう。これが第一の矢です。そして、〝もうだめだ。私の人生もこれで終わりだ〟と絶望感に襲われることが第二の矢を受けることです。そうならないためには、お医者さまに言われたことをまずは受け入れてゆくことです。

病気だけでなく、私共いろいろな因縁を持っておりますから、思いもよらないことに出くわすことがあります。因縁であればどんなことでも受け入れるより仕方がありません。

その後どう対処してゆくか、それが大切です。お釈迦さまがおっしゃるのは「あきらめる」ということです。

あきらめると言っても〝もうだめだ〟とお手上げすることではありません。〝あきらかにする〟ということです。言葉を換えて言うと、逃げないで受け止める、ということです。

根本の原因をあきらかにして、同時に、そのことがいつまでもシコリとなって残らないようにすることです。それが、第二の矢を受けないということです。『月刊法音』第四五三号　六頁

先祖供養の徳　杉山先生以来法音寺は、いろいろな形で多くの人を力づけてきました。個人の消滅・供養という形で集まったお徳を、困っている人を助けることに役立ててきました。社会福祉法人（昭徳会）は人々の求めに応じて多くの施設を経営し、そうした施設で働く人を養成するために学校法人（日本福祉大学）を設置・運営してまいりました。それらの事業をすることによって功徳を累ね、皆さんの幸せを願ってきたのです。その功徳のすべては、供養された皆さんに還元されてゆくのであります。

大白牛車・8　三頁

とこのはの記

優曇華の花

「ここで会ったが百年目。盲亀の浮木、優曇華の花　待ち得たる今日の対面、いざ尋常に勝負！」

歌舞伎や講談の仇討ちの場面でよく耳にするセリフですが、もとは仏教から出た言葉です。

「仏には値いたてまつること得難し、優曇波羅華の如く、又一眼の亀の浮木の孔に値えるが如し」

（妙法蓮華経妙荘厳王本事品第二十七）

「長年捜し求めた仇にようやく出会えた千載一遇のチャンスということだろうけど、〝盲亀の浮木〟って？」

「日蓮聖人は〝私たちが法華経に出会えるのは、海底に棲む片目の亀が千年に一度海上に浮上して、甲羅干しに最適な赤栴檀の浮き木の穴を見つけるようなもの〟と言われたんだ」

「〝優曇華〟というのは？」

「インドで古くから神聖視されてきた植物で、法華経の随所に示されている。何でも三千年に一度だけ、仏さまが世に現れる前兆として花開くと伝えられているんだ。方便品には『諸仏如来　時乃説之　如優曇鉢華』とある。〝諸仏や如来がこの法を語るのは、三千年に一度だけ咲くという優曇華の花のようなもの〟という意味だね」

「いずれにせよ実現するとしたら奇跡なんだ…」

「〝優曇華〟は竹取物語にも出てくるよ。かぐや姫が、求婚する5人の貴公子の一人、庫持皇子（くらもちのみこ）に条件として求めたのが東方海上にあるという〝蓬莱の玉の枝〟で、人々は〝優曇華〟と呼んだんだって」

「結局、実際に手に入れることができなかったから、職人たちにそれらしきものを作らせてかぐや姫に献上し、その後偽物と判明したというお話だったね」

「平安時代に紫式部が著した源氏物語にも〝優曇華〟は登場するわね。北山の寺で療養していた光源氏が、下山するときに僧都が贈った和歌があるわ。〝優曇華〟にそんな意味があるなら、光源氏は〝三千年に一人の美男子〟ということね」

〝優曇華の花待ち得たる心地して、深山桜に目こそうつらね〟（あなたにお目にかかれたのは、三千年に一度開花する優曇

華の花が咲くのを待ち得たような心地で、山の桜には目移りしません）

「〝法華経との奇跡的な出会い〟を譬えた言葉が、昔話や小説に登場するということは、当時から法華経は多くの人に読まれていたということなんだね」

「仏教伝来の時代から現代まで、どの時代にも人々は尊い法華経の教えを大切にしてきたのね」

サンスクリット語の〝サッダルマ・プンダリーカ・スートラ（正しい教えである白い蓮の花の経典）〟を鳩摩羅什が漢訳したのが〝妙法蓮華経〟と言われています。今の時代を生きる私たちも「奇跡的」に出会えたこの教えを大切にし、次の世代に渡していきましょう。

読者の声

一人ずつ、法の輪を大きく育てよう

若松清一（豊川支院）

支院の初講日に行う福引きの一番のお楽しみは、「今年の目標」を教えていただけることです。短冊に書かれていたのは、御開山上人の御詠でした。

みほとけよ　わがたましいを　とこしえに
みのりのために　つかいまさなむ

繰り返し声を出して詠み、〝一人でもご縁のある方にお話を聞いていただけるように広宣流布をさせていただこう〟と思うと、心が晴れやかになりました。

次の講日、受付にあるご夫婦が来られ、会費と先祖供養、罪障消滅をされていました。私が、「いつもよくやっていらっしゃいますね。ご先祖さまも喜ばれ、ありがたいですね」とお声を掛けますと、「お陰さまで、感謝しています。でもね、私たちには10人の家族がいるのですが、心配な子が2人いて、いつも気になっているのです」と言われました。「毎月講日に参詣されてお徳を積まれているから、仏さまにご守護していただけますよ」とお話しさ

せていただきましたが、その方のお悩みは深いと感じました。〝仏さまならどのように教化されるのだろう〟と考えていると、不思議にも御開山上人のご法話が脳裏に浮かびました。御開山上人が「皆さん、本山にはね、お徳がたくさんありますよ。24時間、昼夜を問わず、法音寺の会員さんのご家庭に電波が伝わるようにしてお徳を送らせていただいていますよ。いつも守護していますからご安心ください」とお話しされていたことを思い出したのです。

そこで私は「心配は無用です！2人の子どもさんにもたくさんの功徳がいただけますよ。会員さんになっていただくことが一番の幸せの道で、御開山上人のお言葉を信じることです」とお伝えしました。

ご夫婦は顔を見合わせていらっしゃいましたが、奥さんが決心されたように笑顔で、「会員になって仏さまと縁を結ぶことが本当に大切なことだと知りました。家族全員を会員にさせていただきます」と、会費を9人分まとめて納めてくださいました。私は感激して胸が熱くなりました。

私たちの周りには、ご縁のある方々が大勢いらっしゃいます。お互いに力を合わせて、ご法のお手伝いをさせていただくことを喜びとし、ご法の輪がどんどん大きくなるように精進しますと、あらためてお誓いしました。

得度の喜び ―――― 得度式・平成29年 6月 15日

手嶋宗英さん

手嶋さんは昭和61年11月10日、福岡県田川市に出生。田川支院主管・手嶋敬徳上人のご長男。前・主管・籾井妙沢法尼は大伯母にあたる。

平成17年、福岡県立西田川高等学校から九州産業大学経営学部国際経営学科へ進学。大学卒業後は、田川市内の一般企業に勤務され、公共職業訓練の分野で活躍。

今年4月より本山勤務となり、5月には待望のご長女が誕生。「父」となった責任を感じる一方で、「本当に可愛いです」と相好を崩されることも。

手嶋さんが高校生の時、敬徳上人が得度。その数年後に籾井法尼から引き継ぐ形で田川支院の主管者に。以来父上人の背中を見続け、この程同じ道を歩む決意を固められた。

法号は顕正院宗英日清と申される。

「まだスタートラインに立ったばかりですが、このようなご縁をいただいたことに心から感謝し、一日も早く皆さまのお役に立てるよう日々精進してまいります」と抱負を語られた。

父として、また僧侶として新人の手嶋さんの今後の成長に期待が寄せられている。

橋本宗晃さん

橋本さんは平成5年7月31日、三重県上野市（現・伊賀市）に出生。上野支院主管・橋本道念上人のご長男。平成24年、名張西高等学校を卒業後、立正大学仏教学部宗学科に進学。

仏縁は祖母・妙富法尼の入信による。昭和29年頃、原因不明の頭痛に悩まされていた法尼が藁にもすがる思いで救いを求めた先が、妙法三徳の道だった。

平成19年、道念上人が得度。

お母さまは橋本さんがお腹にいる頃、浄心道場に入行されたという。あまり他に例を見ない生粋の胎教児と言える。

幼い頃、上野支院の先師・犬飼常教上人の真似をして合掌し、お題目を唱えていたそうで、すでにその頃から「将来は僧侶の道を」と心に秘めていたのだとか。この度、その夢が実現し、喜びの日を迎えられた。

法号を顕法院宗晃日拓と申される。

「これまで支えてくださった方々にご恩を返せるように努めてまいります」と抱負を語る。控えめな中にも芯の強さが垣間見える橋本さん。将来がとても楽しみである。

福祉のひろば

ニコニコ子育て～保育の現場から～②

【新生児（0歳児）の子育て】

人間の赤ちゃんは、他のどんな動物よりも弱く生まれ、誰かに育ててもらわないと成長できない弱い命です。そんな赤ちゃんが生まれつきもっている力は、泣くこと、笑うこと。嫌なことや不快感があるときには泣く、うれしいときや心地好いときには笑うことで自分の思いを伝えています。

赤ちゃんは五感の視覚以外は、お母さんのお腹にいるときにすでに発達していて、その五感を使って人と関わり合い、成長していきます。泣いていたら、赤ちゃんに声をかけ、不快だと感じていることを探って、優しく接することを繰り返すことで人を信じる力、自分を信じる力の根源となり、基本的な信頼心が築かれていきます。このことはこの時期に一番大切な育ちだと思います。

ではどうしたら、信頼心が育つのでしょうか。むずかしく考える必要はありません。〝赤ちゃんがうれしいこと、喜ぶこと〟をしてあげることです。ただ、世話をするということではなく、周りにいる大人が「喜んで」してあげることで、赤ちゃんはその思いを受けとめるのです。深い愛情に包まれていると感じると、赤ちゃんは安心して成長していきます。

次に、体の発達特性を見ていくと、生まれたばかりの赤ちゃんは、一時的に体重が減ることがありますが、それは体内の水分量の調整によるものですから心配あ

りません。その後、体重は増加していきます。

ねんね、お座り、ハイハイからあんよへ、一日いちにち赤ちゃんは成長していきます。最近の赤ちゃんは、ハイハイはあまりせずに伝い歩きが始まることも多いようですが、赤ちゃんや住環境によってそれぞれのようです。今までは、ねんねだった赤ちゃんも手と足を使って動き出すと、探究心と行動力が生まれます。目に入るものすべてに興味津々で全力で突進します。そして、欲しいものを手に取ることができると、とても大きな喜びと達成感を得ます。

この時期は行動範囲も一気に拡大し、なんでも口に入れる時期ですので、誤飲の事故も増えてきます。5カ月頃を過ぎると直径4㎝くらいのフィルムケースよりも小さいものは飲み込む危険があるので、手の届かない場所にしまうようにしてください。一時も目を放すことができません。この頃の赤ちゃんは、ティッシュペーパーのいたずらも大好きです。引っ張ればどんどん出てくるティッシュペーパーの箱は赤ちゃんにとって、不思議な箱に違いありません。また、指先を使い、つまむということもうれしい成長です。引っ張り出したティッシュペーパーはお母さんが「ありがとう」と受けとり、再利用すればよいでしょう。不思議と何箱かを使いきった頃を境に、次に興味を移していきます。怒らないで見守ってあげてください。

さて、育児書にはよく〝○○カ月頃には○○ができるようになる〟と書かれていますが、その通りに育っていかないと感じる方が多いように思います。本に書いてあることはあくまでも平均値です。毎日しっかりミルクを飲んで、よく眠り、ニコニコと機嫌良くすごしているのであれば心配はいりません。昼夜の授乳や夜泣きにお母さんもゆっくり眠れず、心も体も疲れていることでしょう。そんなときは自分を責めてしまうこともあるかと思いますが、この時期のお母さんたちは皆同じような気持ちを抱えているようです。自分だけが母親失格だと思わないで、誰かに相談して心をリセットすることも大切だと思います。

そしてお父さんにお願いしたいことがあります。どうぞお母さんに任せきりにしないでください。そして、できることなら「いつもありがとう」と声をかけてください。それだけで随分とお母さんの気持ちも楽になり、ニコニコと笑顔で毎日を過ごしていくことができるでしょう。

（T・T）

福祉に生きる

社会福祉法人 昭徳会
特別養護老人ホーム **安立荘の実践**

『日本の福祉を築いたお坊さん』に学ぶ。鈴木修学先生が築き上げた福祉の新たな未来を切り開くために…

「幸福の種まき」のできる人になりたい

安立荘　介護員　大岩　誠也

この本を読んで、鈴木修学先生の懐の深さがとてもよくわかりました。特に印象に残ったところがいくつかありましたので紹介します。

一つ目は「ほめて育てる」指導法です。修学先生は一つのことを教えようと思ったら五つくらいほめてあげることが必要だと言われていて、尊敬の念を覚えました。子どもは素直なのでほめてくれる人には従うし、すぐに怒る人には絶対についていきません。「ほめて育てる」というのは、誰にでも通用するものだと思いますが、簡単ではありません。ところが、普通は誰でも怒る場面でも、修学先生は怒らずに真剣に話をして解決されていて、すごいと思いました。その中でも、

その子の悪いところを初めに探すのではなく、良いところをほめてから悪いところを注意されています。これは普通の人では絶対にできないことですが、それをすることで子どもも笑顔になり、関係が良くなるのではないかと感じました。

僕も仕事の中で「これはおかしい」「自分が合っている」「間違ってない」と思っても、その気持ちを出さずにちゃんと話し合い、利用者さんとしっかりと絆を深めることができるようにしたいなと思いました。また、利用者さんに対して、思いやりや優しさを一生持ち続けられるような介護員になりたいと思いました。

二つ目は日本福祉大学の「建学の精神」です。「社会事業の専門的知識を持つ人間を作ることよりも、大慈大愛に生きる人生観を把握した健全な人格を育て、社会事業を通じてわが人類のために、自己を捧げることを惜しまぬ志の人を現実の社会に送り出したい」

知識だけを持つよりも、自分を犠牲にしてでも相手の幸福を優先して接することは、とても大事なことなのだと学ばせていただきました。また、相手を思うことで、より良い社会を作れると思いました。また大人から子どもへと愛情や幸福等がたくさん受けつがれることによって、日本は平和になり、明るい未来が待っているだろうと思いました。僕も福祉の世界に入った以上は、優しさや思いやりの心を持ち続けたいです。

最後に「幸福の種まき」という言葉があります。杉山先生から学んだこの言葉は、修学先生を突き動かす原動力になったと言われています。本当に良い言葉で、修学先生もそれを実行していてすごい人だと思いました。

この本を読んで、真剣に「幸福の種まき」のできる人になりたいと思いました。いつも昭徳会の法人の理念を持って働けるよう、思いやりの大切さを忘れずに仕事に取り組んでいきたいです。

困っている人を幸せにする姿はカッコイイ

安立荘　介護員　知念　璃央

日本の福祉を築くためにさまざまな福祉に携わってきた鈴木修学先生が、どんな足跡を残してどんな生活をしていたのかを知ることができました。

杉山辰子先生との出会いにより、それまでの生活を見直して、一日一日を大切に生きることを誓い、家族

・親戚のために法華経の教えを説いてまわるのはすごいと感じました。また、杉山辰子先生の教えの道をまっすぐ歩むために繁盛していた商売を畳み、仏教感化救済会に本格的に入会したのはすごい決断だと思いました。

そこからハンセン病療養所での重い任務に就き、ハンセン病患者やそこで働いている職員のために自分たちの生活を削ったり、畑仕事をして食糧を確保したり、寄付を訴えて患者や職員のためにいろいろなことをされています。自分の大切な金時計を売り、患者のために使うなど、本当に患者思いの優しい方なのだと感じました。杉山先生の教えを守り、患者のために自分たちができることを精一杯やり切ったほか、罪を犯した少年の更生を助けるために引き取り指導をして、本来の人間性を取り戻すために一緒に汗水を流すなど、本当に少年のことを考えていると感じました。

また、親から虐待を受けた子どもたちが安心して暮らせるために一緒に掃除をしたり、ほめて育てたり、保育園・診療所の開設をして本当にたくさんの人を幸せにするための努力はカッコイイです。診療所のお医者さんは杉山先生の教えをしっかり勉強した立派な方たちで、ここでは貧しい人々には無料で診察していたので地域の人々にはとても喜ばれたといいます。たくさんの方を助けるために、自分自身を犠牲にしてでも困っている方を少しでも幸せにしようと活動する修学先生の姿はカッコイイと感じました。

この本を読んで、修学先生は本当にすごい方ですばらしいことをされたのだと思いました。不幸な方を幸せにするためにどんなことをしたら良いのかを杉山辰子先生から教わり、その教えを実践し、少しでも幸せにしようとしていくのはカッコイイです。また自分自身の生活を犠牲にして人を助けることは、本当に周りの方を思って行動したのだと感じました。

修学先生が歩んできた人生を私自身に置き換えて考えてみましたが、私に同じ行動ができるかというと自信はありません。やっぱり自分自身のことを第一に考えるところがあるので戸惑いはあります。ただ、この本を読んでからは入居者さんや周りの方のことをしっかりと考え、どんなことをしたらみんなが幸せになれるのかを考えていきたいと思いました。

一人でも多くの方が幸せになれるように頑張っていきたいです。それで一人でも多くの方が本当の幸せを

感じられるようになれたら良いと思っています。

偏見で苦しむ人の力になる姿に心打たれました

安立荘　介護員　中邨　里奈

鈴木修学先生は、日本に「社会福祉」が広まる前、他のいろいろな制度が定まる前から多くの苦しむ人々や助けを求める人々の介護・養護・教育に取り組んだ偉大な人だということが、この本を読んでとても伝わってきました。

私が一番心に残ったのはハンセン病のことです。私も中学生のころに「人権」について学ぶ時に、ハンセン病患者に関するビデオを見たことを思い出しました。今では治療法もあり感染力も少ない病気だとわかっていますが、昔は詳しいことはわかっていなかったので、ハンセン病になってしまうと周りから強制的に隔離されてしまい、療養所へ入所せざるを得なくなってしまいました。ハンセン病だけではなく、偏見で差別される方も多かったと思います。そんな悲しい現実を目の当たりにした修学先生は、療養所を訪れて早速施設の修理に取り掛かりました。しかし、予想以上に費用がかかり、そこから修学先生と妻のみつ夫人の苦しい日々が始まりました。二人は困難な状況にも負けず、協力し合いながら患者のために自分たちができる小さなことから、少しずつ行っていきました。そしてそうすることで、少しずつ周りの人たちも二人の熱い心に負け、寄付をしてくださる方も増えました。その後、日本人で初めてハンセン病の病院を創院したお坊さんが療養所を引き継いでくださるまでの二年半は、修学先生ご夫妻にとって忘れられないものとなりました。

修学先生夫妻は本当に自分たちのことを後回しにして、苦しんでいる人、偏見で差別されている人を第一に考え、強い熱い心を持って取り組まれてきました。その姿が少しずつ周りの人々を動かし、やがて周りの人たちの行動が、苦しんでいる人たちの助けにつながっていく様子に感動し、とてもすばらしいことだと思いました。

偏見で人を判断してしまう人も少なくはないと思います。それでも、どこかで修学先生のような方がいらっしゃると思います。本当に、このお方の生きざまには心を打たれました。

人のためのようで自分のため

安立荘　介護員　後藤　翔真

「親のない子を助けて幸せに導くこと」

住む場所もなく親もいない子どものために行動した修学先生。「不幸な人々に、自分ができることを精一杯尽くすこと」人を助けることで自分が不幸になってしまうかもしれないのに、人のために自らを犠牲にする心がすごいと思った。見返りを求めていたらできない行動である。私は別に見返りを求めているわけではないが、反応は欲しいと考える。仕事中に入居者さんから「ありがとう」と言ってもらえることがやりがいとなっている。しかし、やってもらってあたりまえと考えているのか、何も言ってくれない方もいる。そこで「自分の時間を費やしたのに」と思うのではなく、「こっちもやるのがあたりまえだから礼を言われるほどでもない」そう考えることで誰も傷つかないし、あたりまえのことをあたりまえにできる人になれる気がした。

「節約の人」という見出しの文章がある。修学先生はさまざまな事業に取り組みつつ、全国を飛び回って布教活動をし、浮いたお金は施設の運営費に回したとある。

「ぼろきれをまとい、粗食に甘んじ、心は妙法を離れず、身辺は清廉を保ち、余財あれば一切を挙げて難民救済の資に奉ずべし」

これを読んで改めてすごい方だと思った。私には無理である。相当な覚悟が必要であるし、厳しい。人のため自分を犠牲にするのにも限度がある。時間・お金・労力すべてを不幸な人々のために捧げた修学先生。しかし、私が救われる立場だったら、〝なぜそこまでして救ってくれるのか、少しはご自分のことも考えてほしい〟と思ってしまい、申し訳なくなる。自分が幸せになることで相手が不幸になるのではないか、と考えてしまう。

だが修学先生は自分が苦しくなっても不幸とは考えず、むしろ幸せになった人を見ることで、〝やって良かった〟と幸せになったのかもしれない。人のためのようで自分のため。私も仕事で相手を喜ばせたいと思った。やはり感謝や喜びはやりがいにつながる。どんなに辛くても、笑顔になってくれるだけでやって良かったという気持ちになる。この心は仕事で大切な心だと思う。お金を戴くからには、それに見合った仕事を

しなければいけない。〝辛さの中にも楽しさを…〟やりがいと誇りを持つことで仕事に対する意欲も増すし、質の向上にもつながると思う。慣れていくうちにこの気持ちが薄れていかないよう、定期的に自分を見つめ直したい。

今はやっと仕事に慣れたところで、まだ一人ひとりの入居者さんを見ることができていない。業務以外に時間を作って援助ができるよう毎日少しずつ観察していきたい。日々の積み重ねは、一年経てば大きなものとなる。昭徳会の活動の基本方針五つを達成し、継続していくために、修学先生ほどではないが、自分の時間を有効に使ってより良い生活が送れるよう努めたいと思う。

人々のために助けになることを心掛けます

安立荘　介護員　奥山　洋司

この本には昭徳会の今に至るまでの歴史がとてもわかりやすく書かれています。そして、人々のために尽くされた鈴木修学先生が残された昭徳会の一員として、人間として何が大切なことなのかが示されており、自身のことを見つめ直しました。

始まりは、修学先生の生い立ちから杉山辰子先生との出会いについて。若い頃、誰しもが悩み考えるものの、忙しく日々を過ごすうちに考えることを忘れてしまう人生の意味を、修学先生は考え続けました。そして、答えを得ようと思っていたからこそ杉山辰子先生という師に出会うことができ、その教えを実践したことで、修学先生は自身が歩むべき道を見つけられたのだと思いました。

それから修学先生は自ら苦難の道を進んでいきました。その苦難を通して自身の生きる意味を一つひとつ見つけ、苦しんでいる人々を助けられました。

生の松原のハンセン病療養所では、偏見や差別の中で生きている患者たちのために身銭を使い、少しでも患者たちへ温かい治療を施そうと、いろいろなものを質に入れ、「博多どんたく」へ患者たちを連れていくなどして懸命に尽くされました。しかし、療養所の経営は良くならず社会事業のむずかしさを学びました。そして、自らの体験で得た教訓は昭徳会が発展する力になりました。

臥竜山での農業指導では少年たちとともに農業をし、

収穫した米を貧しい人たちに施しました。体験をともにしながら少年たちと共感し導くことで、人の心が動くことを学びました。

藤森の育児院では虐待を受けた子どもたちとともに生活し、杉山先生の教えである「慈悲・至誠・堪忍」の教えを基に「子どもたちをほめる教育」を進め、その心を開いていきました。

第二次世界大戦が始まると、昭徳会の前身だった大乗報恩会は特高警察により弾圧を受けます。教えを広めることが禁止され、修学先生も取り調べを受けました。しかし、修学先生は何があったかは誰にも言わず、行者として教えを守っていました。

戦争が終わり、日本に孤児がたくさん生まれると、修学先生は孤児を少しでも助けるために尽力されました。そして障害者の支援施設、福祉をめざす若者のための大学の設立など人々のことを想い、普通の人ではできない大きなことをされました。

私も小さなことでも人々のために助けになることを心掛け、仕事でも普段の日常でも頑張っていきたいです。

真心をもって仕事に取り組みます

安立荘　看護員　髙野　聖子

私の実家は日蓮宗で幼い頃から祖母に教えられ、「南無妙法蓮華経」とお題目を唱えてきました。この施設に入社しこの本を戴いた時は、まず日蓮宗のお坊さんが福祉をしていたことに驚きました。

私は祖母に「なぜお経を唱えるのか」と聞いたことがありました。祖母は「唱えることで常に守ってくださり、どんな辛い時も困難があろうとも乗り越えられるように見守っていてくれるんだよ。一日一日、何事もなく幸せに過ごせるからね」と教えてくれました。

修学先生は人生の意味を考え、自分の役割を探す中で法華経にたどり着きました。修学先生も「困っている人を助け、法華経を信仰する善人をつくることです。自分のできることで、立場を通し、仕事を通して、人の喜ぶことをして導くのです」と教えられています。私も祖母に思いやりや感謝の気持ちを常に持つように教えられました。この本を読んで幼い頃から祖母が私に伝えたかった言葉の意味、法華経の大切さが少し理解できたような気がしました。

幼い頃の私は人見知りで、体も弱く内気な子どもでした。いじめにあったこともありました。そんな時、祖母は何も言わずに毎日お題目を唱え、私の幸せを願って一緒に唱えるよう導き、見守ってくれました。私は祖母や家族に支えられ、毎日何事も前向きに考えられるようになり、人見知りもしなくなりました。そして、何か人のために力になれる仕事がしたいと思うようになったのです。私が医療福祉の道へ進んだきっかけでもありました。修学先生がたくさんの人々を支えたように、私も一人でも支えられる存在になれたら良いなと思います。

法華経には「慈悲・至誠・堪忍」という三徳があることを知りました。修学先生は「人に親切にすること、ほめること、何事も精一杯行い、広い心を持つこと」と説いています。それは私が育ってきた環境そのものでした。施設で働き、医療福祉に携わることで辛いことも大変なこともたくさんありました。しかし、厳しい中だからこそ明るい心を失わず、どんな時も前向きな姿勢で立ち向かう修学先生のように、私も常にこの心を持ち続けて頑張ってきました。

「苦労をともにし、真心をもって導けば必ず人の心を動かすことができる」と確信した修学先生の言葉にとても共感することができ、感動しました。人の心を動かすことはとても困難ですが、少しでも気持ちを理解しようと考え、楽しさやうれしさ、笑顔をともにしていくことの大切さを改めてこの本を通じて感じることができました。私はこれからも法華経に感謝し、お題目を唱えていきたいです。

特別養護老人ホーム　安立荘

●愛知県みよし市打越町山ノ神60
●入所定員80名、ショートステイ8名
●職員　正職員34名、パート職員42名

●看護員＝入所者の健康管理、健康指導や健康相談、入退院や通院の援助、医師との連携を主に担当。看護師の資格が必要。
●介護員＝入所者の食事介助、排泄介助、入浴介助、移動介助、清潔・整容介助を主に担当。国家資格である介護福祉士の取得者が望ましいが、介護員として特に資格は必要としない。介護員として3年間の実務経験と実務者研修の修了で国家資格である介護福祉士の受験が可能となります。

※本稿は平成28年9月にいただきました。（掲載順不同）

『日本の福祉を築いたお坊さん』日本福祉大学を創った鈴木修学上人の物語　星野貞一郎著・中央法規出版・新書版・160頁・800円（税別）
本書の著者印税のすべては「あしなが育英会」に寄付されています。

みんなの安全を守ります！

写真提供・昭徳会

特別養護老人ホーム・安立荘
～見える化で厨房内の危険を防ごう～

「食事」は、日々の生活の中でも大変重要で、入居者さんにとっては楽しみの一つです。調理は〝作って出すだけ〟の簡単な仕事と思われがちですが、老人ホームでは食中毒を起こさない衛生管理のほか、個別対応、味のバラつき、怪我などさまざまなことに注意を払う必要があります。この中で厨房では、「安全でおいしい食事の提供」を入居者さんの「幸福」につなげるという大きな目標を掲げています。この目標を達成するために、①業務の確実性、②危険の予知力、③考動力をつけ、より安全でかつ効率的な業務遂行をめざしています。これらを念頭に置き「リスクアセスメント」という手法で業務改善を実施しました。

最初に危険箇所の特定、次にリスク（危険度）を見積もり、リスクレベル（危険度の段階）を決定という手順で行います。点数が高いほどリスクレベルが上がるため、リスクの高い危険箇所から取り組める仕組みです。この手法を用い

て見つける力、解決する力をつけながら、大目標である「安全でおいしい食事の提供」をめざすことにしました。厨房職員と栄養士で危険箇所の特定を行いましたが、50カ所もの危険箇所が挙がり、厨房内に潜む危険の多さに驚きました。

今回は同時期に行われた保健所監査での指摘事項と、リスクレベルの高かった項目から①調理作業エリア見直し、②フードカッターの使い分け、③生野菜の消毒方法、④調理済み食品の温度管理方法、⑤まな板交換、⑥揚げ油保管容器変更による腰痛対策、など6つの改善に取り組むこととしました。

職員同士知恵を出し合いながら改善した結果、すべての危険箇所でリスクレベルが低減しました。個人の基準や経験則ではなく、厨房としての基準を作ることで作業のバラつきをできるだけ減らし、全員同じ作業ができるようにマニュアルを作成するなどしました。特に見える化・作業の標準化に力を入れ、未経験者やキャリアの浅い職員にも理解しやすいことを念頭に作成しています。

取り組みの成果は、危険や問題を発見するだけでなくさまざまな波及効果がありました。栄養士の協力を得ながら、課題に対しての考動力がつき、職員間のコミュニケーションも増加、効率化できた時間でおやつイベントを開催することもできました。特に、手作りのおやつ会は好評で楽しみにしてくださる方も多く、普段入居者の皆さんとの関わりが少ない厨房職員にとっては、直接ふれ合える良い機会となり、モチベーションアップにつながっています。

「リスクアセスメント」は調理に人が介在する限り、終わりはありません。今後も日々危険箇所を見つけ、さまざまな災害を防ぎ、入居者も職員も、皆が幸福を感じられるよう、仕事に取り組みたいと思います。

特別養護老人ホーム・安立荘　調理員　**三谷富美子**

特別寄稿

新入生、「建学の精神」を学ぶ

――日本福祉大学付属高等学校

日本福祉大学付属高等学校　教頭　山口喜久枝

今年も本学の学園長・鈴木正修先生より、新入生全員に『日本の福祉を築いたお坊さん』を戴きました。また、「福祉をグローバルな視点でとらえ、探究力・行動力・未来を切り拓く力を育てよう」と新しく設定された科目「Global FUKUSHI Studies」において、正修先生より「建学の精神」についてお話しいただく機会を得ることもできました。

高校生活が始まって2カ月、新しい生活の中で自分の目標を掲げ、生徒たちは日々懸命に学習に、部活動に取り組んでいます。「建学の精神」に大いに学び、生徒が自己の可能性を伸ばしていってくれることを願います。

「生きる」ことの意味を求めて

金村　はるな

「自分は何のために生まれてきたのだろう」修学先生が最初に考えられたように、私も時々思うことがあります。『日本の福祉を築いたお坊さん』を読んでいくうちに学んだことがあります。

それは「役割」についてです。普段は言われたことを適当にやって終わりです。面倒だと思ったり、途中で投げやりにしてしまったりすることも多々あります。でもそれは、本書から引用すると「あなたにはあなたでなければできない大切な役割があります」とあるように、「私でなければできない」、そういう気持ちが足りないだけなのだと思いました。

続いて「行動」についてです。「役割」と似ていると感じるかもしれませんが、私が学んだことは少し違います。「誰かのために」行動することのすばらしさを知りました。修学先生がいろいろなことをして、その場面で学んだことを生かして、さらに行動をするという行動力も尊敬していますが、一番はその行動に献身の思いが込められていることです。自己を犠牲にしてまで、人のために何かできるということは普通の覚悟ではないと思います。慈愛をもって献身的に行動できるようになるために、修学先生を見習って「自分について知る・考える」ことを第一歩として、自分もやってみようと思います。

私が日本福祉大学付属高等学校に入学したのも、修学先生が書き上げた「建学の精神」や学園教育標語「万人の福祉のために真実と慈愛と献身を」という言葉に惹かれたからです。私のこれから進む道には、修学先生の生き方があるはずです。役割も行動も、学んだことを少しずつ取り入れて、一つひとつ全力で向き合える人になりたいと思います。

誰かのために

鈴木　志隆

僕は修学先生が若い頃から人生の意味を考えていたことに驚きを感じた。人は普通、世間的に成功することや、ぜいたくな暮らしをして心を満たすことが幸せだと思うことを、当然だと考えるからだ。修学先生は若くして借金を抱えてもくじけず仕事に励み、大きな成功を収めるが、派手な遊びもせず、勉強に励まれ、自分の生まれてきた意味を考えた。自分はもちろん、周囲にそこまで考える若者を僕はあまり知らない。修学先生が生きていた時代は、戦争があり、今よりも不自由な時代だったにもかかわらず、自分の成功や幸せよりも、「他人のために何かをしてあげたい」という思いを一番強く持ち、行動することは簡単ではなかったと思う。

実際に、戦後、浮浪児を駒方寮に連れて来た時、子どもたちは言うことをきかなかった。しかし修学先生は、声を荒げることなく、温かく見守り、やさしく愛情を注がれ、良いところを見つけ、ほめることを心掛けられ、たくさんの浮浪児を助け、幸せに導かれた。戦後の大変な時期に、親の無い子を助けて幸せに導く。不幸な人々に自分ができ

ることを精一杯尽くすことは簡単なことではない。
僕は日本福祉大学に進学したいと考えているので、もう一度、何のために日本福祉大学に進学したいのかを、そして自分の人生の意味を考えたいと思った。この本を読み、学園長であられる正修先生のお話を聞いたことをしっかりと心に刻み、今後の自分の人生を自分のためだけではなく、他人のために何ができるのかもしっかりと考え、歩んでいきたいと思った。

これからの私

家田　莉奈

私が『日本の福祉を築いたお坊さん』を読んで率直に感じたことは「私にはとても真似ができない。修学先生はなぜここまで人のために自分を犠牲にできるのだろう」ということでした。
まず、一番驚いたことは、ハンセン病という病気についてのことです。恥ずかしながら、私は今までハンセン病という病気を知りませんでした。そのため完全隔離されたり、人間として扱われなかったと聞いた時こそ「ひどい、病気なのだから助けてあげないといけないのに」と思いましたが、実際に患者さんの写真を見た時に、その扱いに納得してしまいました。私も偏見の目で見て、ハンセン病を恐れる者の一人になってしまったのではないかと思います。修学先生は、逆境の中にあっても屈することなく、自分の持ち物を売ってでも患者さんを助けようとしました。修学先生は本当にかっこいい人だと素直に思いました。
修学先生の行動には他にも驚かされることが多々ありましたが、すべてに共通しているのは、他人のことを考え、他人のために行動しているということでした。ここで、私のことを振り返ってみると、「人のためになることがしたい」と口先ばかりで、自分のことしか考えていないことに気づかされました。そこで、私は今後の目標として「人の気持ちを考え、人のためになるように行動する」ことを掲げます。私はまだまだ精神的に幼く、自分勝手な考えや行動が目立ってしまっていると思いますが、学校や日常生活を通して多くのことを学び、いずれは修学先生のように人を愛し、愛される人間になりたいと思っています。

幸せの種をまこう

伊藤　雅

私が『日本の福祉を築いたお坊さん』を読み、正修先生のお話を聞いて、一番印象に残っているのは「幸せになるには幸せになる種をまく」ということです。「不幸な人の手助けをすることこそ、幸せの種まきにほかなりません」という杉山辰子先生の言葉を聞いた時、本当にその通りだと思いました。いくらお金を持っていて何不自由なく暮らせていても、人を見捨てたり、見下したりしていたら、心が満たされることはありません。反対にお金が無くても、人を助けたり、救ったりすれば、心が満たされると思います。だから、杉山先生は「不幸な人を助けなさい」とおっしゃったのだと思います。
修学先生がハンセン病患者を助けに行った時、修学先生

と奥さんは自分たちの着物などを質屋に売って、生活費や建物の修繕費を得ていたことを知り、患者さんのことを第一に考えて行動を起こしていることに感心しました。さらに、正修先生がお話しされた中に、修学先生がハンセン病患者の皆さんと一緒にお風呂に入ったり、食事をされていたと聞き、とても驚きました。今ではハンセン病は感染力も弱く、患者の人と長く一緒にいても感染しないことがわかっているので、患者さんと一緒に生活することはできると思います。しかし、修学先生の時代は、遺伝する、あるいは空気感染すると言われていた病気なので、とても勇気ある行動だと思います。修学先生の勇気と優しさで、きっと多くのハンセン病患者の人たちが救われたのだろうと感じました。

修学先生はまだ「福祉」という言葉がなかった時代に生きたにもかかわらず、ハンセン病患者の手助けをし、戦災孤児の子どもたちを育てるなど、普通に過ごしていたらできないことを成し遂げられた方です。少しでも見習っていきたいと思いました。

修学先生に学ぶ

伊藤　八奏

私は今回正修先生のお話を聞き、学園創立者の鈴木修学先生は本当にすごい人だと思いました。その修学先生が、付属高校が大好きだと耳にした時は、心からうれしい気持ちになりました。スポーツを観るのが好きで、よく試合にも足を運ばれ、生徒思いの良い先生だったのだと感じました。

印象に残ったことは二つあります。一つは「あなたは自分の正体をわかっていますか。あなたには大事な役割がある。自分自身でおいおい気づいていき、幸せの種をまくことが大事」という杉山先生の言葉です。これは修学先生が杉山先生より教えていただいた言葉ですが、自分たちにも教えられていると思いました。まだ自分の役割が何かわかっていないので、この言葉通りに少しずつ気づいていけるように日々生活していきたいと考えています。いつか「幸せの種」をまけるようになるまで努力をしていきたいです。

二つ目は人を助けることです。修学先生が生きていた当時は、ハンセン病が流行っていました。病気の人を助けるために先生はいろいろな取り組みを行いました。今は病気以外にも人を助けられることがたくさんあります。だからこそ、小さなことでも優しい心で人を助けられる存在になりたいです。

今回の正修先生のお話の中で、修学先生を通してたくさんのことを学ぶことができました。この話で聞いたことを忘れずに、これからを過ごしていきたいと思います。

修学先生の思いの詰まった学校

百合草　絢太

修学先生は社会的に立場の弱い人を助ける中で、この日本福祉大学を創設されました。特に、僕が興味を持ったのは、修学先生が商売を成功させて、裕福な生活を送っていたにもかかわらず、その仕事を辞めて「幸せの種」をまく

ことに人生を捧げたところです。修学先生はとてつもない覚悟を決められたのだと思いました。もし僕だったら、裕福な生活で一生を終えたいと自分のことを考えてばかりだと思います。修学先生の行動を見ると、自分を小さな人間だなとつくづく感じます。

修学先生は戦争の時代の子どもたちの施設づくりにも力を入れられましたが、修学先生の叱らず、ほめて子どもを育てるという方針に、修学先生の〝優しさ〟を強く感じました。

修学先生の存在がなければ、この学校は建てられてはいませんでした。修学先生のご苦労の多かった人生の中で、ハンセン病の方々や戦争孤児など社会的に弱い人々を助けていった結果が日本福祉大学、そして付属高校を生むきっかけとなったのです。その偉大な修学先生のお陰で学校があり、自分がその学校に通っているのだと実感しました。修学先生がこの学校を作られたその思いを考えて、これから毎日、学校に通いたいと思いました。

強いハートを持って

牛田　健斗

まず、修学先生はこの高校が大好きだったということが印象に残っています。また、福祉というものがそこまで社会に浸透していなかった時代に、その考えをもっていたことがすごいと思います。自分だったら、普通の生活の中で、自分の固い意志など持てないと思います。

修学先生のすばらしいところは、自らの考えを行動に移したことです。ハンセン病と闘っている人たちの励みになり、学園を設立し、厳しい修行をされました。どれにおいても、福祉への関心と行動力を兼ね備えた修学先生にしかできなかったことだと思います。ハンセン病の人たちと一緒にご飯を食べる、一緒にお風呂に入る、これは簡単にできるものではないと正直思います。嫌がることなど一切なく、ハンセン病の人たちと別れることが一番悲しいというその優しい心など、すべてにおいて見習うべきところがあると思います。

子どもたちへの教育の仕方も修学先生らしいと思います。自分のことを「お父さん」と呼ばせ、本当の家族のような関係を作る、どんな子も必ずほめてあげるという教育の大方針、他人を観察して良いことをしていた人をほめる向上箱、すべて子どもたちにとって良い環境だったと思います。その最高の空間を作り出す修学先生の教育、自分の体をも犠牲にする強い心、それらも自分が見習うべきところだと思います。

修学先生が送られてきたのは、つらいことも多い大変な人生だったはずです。しかし、それを前向きな考えで、いつも楽しく過ごせたのは修学先生に強いハートがあったからだと思います。これからの人生、何があっても修学先生のように強いハートを持って生きていきたいと思います。

僕の道しるべ

神谷　雄太

正修先生のお話を聞き、修学先生は人生のすべてを人の

ために尽くした人なのだと思いました。お坊さんの仕事のみならず、さまざまな仕事にも自発的に取り組み、多くの人の幸せを優先するすばらしい人だと感じました。

代表的な仕事はハンセン病患者の皆さんを救済したことです。この仕事で修学先生は、ハンセン病患者救済に伴って、＋αのさまざまな雑用も自分から行っています。例えば、患者の方が生活をしていた施設の修理や運営などもこなし、自分の身を犠牲にして取り組んでいらっしゃいました。自分にはなかなかこういう行動はとれそうにありませんが、自分にはない力を持っている修学先生はやはりすばらしい人だと思います。

計三回も荒行に行き、その荒行の中で「建学の精神」を完成させた修学先生に感謝します。先生が、この日本福祉大学付属高校のもととなるものを考え、社会にうちだしてくださらなかったら、自分自身の中学3年生の時、この学校の選択はありませんでした。「建学の精神」は僕をこの学校に導いてくれたものの一つだったんだと思います。

僕は『日本の福祉を築いたお坊さん』の本を読み、正修先生のお話を聞いて、絶対に地元の高校では体験できないことができ、改めてこの学校を選択して良かったと思いました。―自分のために、人のために努力する―僕はこれからの人生においてこの目標を掲げ、生活をしていきます。

出会いと仲間の大切さ

小林　夕夏

修学先生は本当に優しく、良い人で、この付属高校が大好きだったのだということを正修先生のお話から知りました。修学先生はどんなに忙しくても空いている時間を見つけては、子どもたちが勉強や運動をしている姿を見に行っていたということと、高校で最期の時を迎えられたのは幸せなことだったと正修先生は語っていらっしゃいました。

私は正修先生のお話から学んだことが2つあります。

まず一つ目は人との出会いの大切さです。修学先生は杉山辰子先生と出会わなければ、本当の幸せは何だろうと疑問を持ちながら、パン屋を続けていたのだと思います。そう思うと、修学先生が人助けをしようと思うきっかけとなった出会いはとても大切なことだと思います。

2つ目は仲間の大切さです。いくら修学先生が人のためになろうと思って活動していても、一人では限りがあります。ハンセン病療養所や子どもの世話、日本福祉大学付属高校を創設することができたのも、やはり修学先生を信頼し、手助けをしてくれる仲間が沢山いたからだと思います。

これから私は修学先生の人生から教えられた「人との出会い、仲間の大切さ」を忘れずに生活していきたいと思います。具体的には、一人ひとりの友だちとの出会いを大切にし、私のことを信頼してくれる仲間を増やし、困ったときに助け合える関係を築きたいと思っています。また失敗を恐れず、修学先生のようにさまざまなことに挑戦していきたいと思います。この日本福祉大学付属高校の生徒であることに誇りを持ち、これからの高校生活を送っていきたいと思います。

ともに生きる

野田　果歩

最初に思ったことは、修学先生はどんな人でも差別することなく、人権を守り、一人ひとりを大切にしているということです。人を助けるのではなく、ともに生きるという方法で人を支えていて、このような生き方があることを私たちに教えてくださいました。

社会的弱者と呼ばれる人々のために、自分は何ができるのかと考えたときに、一番に頭に浮かんだのが医療関係の仕事に携わっていくことです。私は将来、看護師になりたいと思っているので、人に助けられるのではなく、修学先生のようにともに寄り添い、少しでも人の力になれるようになりたいと思いました。

人がうらやむ世間的な成功やぜいたくな暮らしが心を満たすものではない、と修学先生はお考えになられていました。世界一貧しい大統領として知られているホセ・ムヒカさんも同じことを述べられています。人のために何かをしようとする人たちは、自分の商売などがいくら成功していても、裕福な生活を求めないで、多くの人に時間と労力と金銭と愛情を費やしている。実際に私にはそのような行動をとることはできませんが、今、学ぶべきことをしっかりと学び、さまざまな経験をして、少しでも修学先生のように今の自分にできることを考え、行動に移すことができる人間になりたいと思います。

「社会的弱者」という言葉にも抵抗を感じます。この呼び方は対象とされる方を下に見ているような呼び方に感じます。まだまだ差別の残る日本のなかで、私たちが改善すべきものがたくさんあるように思います。

修学先生から学んだ二つのこと

香川　萌人

僕が『日本の福祉を築いたお坊さん』の本を読んで、学んだことは二つあります。

一つ目は相手がどのような人でも優しく思いやる気持ちを持つということです。僕は仲の良い友だちや知っている人なら、優しく思いやる気持ちを持って行動することができるのですが、知らない相手だと、何かしてあげたいという気持ちを持っていても恥ずかしく思い、何もすることができないのがほとんどです。僕は修学先生の「積極的に行動できる勇気」をすごいと思いました。勇気をもって、積極的に行動するのはとてもむずかしいことだと思いますが、これからは僕も少しでも人のためになるような行動ができるようになりたいと思います。真心をもって行動し、人の心を動かすことができたら良いと思います。

二つ目は「ほめて育てる」ということです。人に対して名前で呼び合い、良い言葉を使って相手を尊重する姿勢はとても大切なことです。これは今だけではなく、将来、僕たちが社会人として生きていく中でも大切なことだと思うので、日頃から意識したいと思います。「叱ることを避け、子どもの良いところを早く見つけてほめる。叱る前にほめ、ほめたあとで教える」というルールがとても良いと思います。叱るよりほめることを大切にする。僕も子どもと接す

る時は、この教えに学びたいと思います。
この本や正修先生のお話から学んだ二つのことを意識し、大切にしながら、これからの毎日を過ごしていきたいと思います。

幸せを求めて

古瀬　愛旺

修学先生は、常に人生の意味や、幸せになるとはどういうことかを考えて、人を助けることができる素敵な人だったのだとわかりました。修学先生は若い時期より、「人生は何のためにあるのか、自分はどうしたら幸せになれるのか、幸せになるとはどういうことなのか」ということを考えていらっしゃいました。私は今まで自分の人生の意味なんて考えたこともなかったし、幸せになるとはどういうことかと聞かれても、今の自分では何も答えられません。ただ目の前のことに必死になって周りが見えていなかった自分は、この先の将来を考える時に、きっと今のままでは幸せな人生を送ることができないと感じました。

修学先生も幸せになれる方法がわからず、悩んでいました。そして、杉山先生に聞きに行き、答えが出ます。いつ、どんなときでも、人々の手助けをすることが幸せになれる方法だとわかったのです。修学先生は大病の人を助けたり、親の無い子を育てたりして、自分の役割を果たそうとされました。幸せになれる方法を聞いて、自分で考え、行動を起こすことができる人が修学先生です。子どもを育てる時も、とにかくほめる、良いことをした子どもにも、それを評価した子どもにも両方に褒美をあげる、名前を呼び捨てにしない、体罰を与えないことを方針にされました。子どもたちが先生のことを好きだった理由がわかります。先生が愛情をもって毎日、子どもたちに接していたのです。

何も考えずに生きるのではなく、自分で幸せになるとはどういうことなのかを考え、答えを出し、信念を持って最後までやり抜くことの大切さを修学先生から学びました。先生のような生き方をしたいと思います。

強い意志と行動力

伊藤　涼馬

『日本の福祉を築いたお坊さん』を読み、修学先生がどれだけ偉大ですばらしい方なのかを感じています。「本当の幸せとは」「どうしたら幸せになれるのか」そんな疑問を解決するために、先生は杉山先生のところに行きました。自分の疑問を解決するために行動を起こす、それは今の自分に足りないと感じていることです。「勉強でわからないところがあれば、先生や友だちに聞く」修学先生のように人生や幸せについての疑問ではないけれど、今の自分には何かを解決し、突きとめるために行動する力がないと思います。これからは、自分が抱く疑問を解決するために行動を起こす、このことを心掛けて生活していきたいと思います。

他にも修学先生から学んだことはあります。「自分の中に強い意志をもつことの大切さ」です。ハンセン病患者のために自分や奥さんの物を質に入れてでも何かをしてやる

こと、子どもをほめて伸ばすこと、人は働くことに喜びを得るということなど、自分の考えを貫き通す力を先生は持っています。自分に足りない部分がここにあります。今の自分には「大切にしていること」がこれといってありません。これからの高校生活の中で、自分の中の揺るぎない何かを見つけ、それを大切にする生き方をしたいと思います。

修学先生は日本福祉大学の創立者であり、偉大な人である。これまでは修学先生に対して浅い知識しかありませんでしたが、正修先生の講話を通して、修学先生が自分には足りない大事なものをたくさん持っていらっしゃること、僕たちの見本、お手本となる人であるとわかりました。これからも日本福祉大学付属高校の生徒として、先生に恥じない生徒になれるよう、努力していきます。

幸せになりたければ、幸せの種をまきなさい

中野　忠大

僕の家は祖父の代から天理教を信仰しており、小さい頃から天理教の話を聞いて育ちました。なので、他の宗教の話を聞くことに少し抵抗を感じていました。正直に言えば、宿題なのでしぶしぶ『日本の福祉を築いたお坊さん』の本を読みましたが、途中、ある言葉と出会い、僕の目つきが変わりました。それは、学園長の正修先生も講話の中でお話になった「幸せになりたければ、幸せの種をまきなさい。不幸な人を助けることこそが幸せの道だ」という言葉です。天理教のお話で次のようなものがあります。「まいたる種はみなはえる。人を助けて通れば、自分が困ったという時に思わぬ人の助けを受ける」僕は「似ている」と思いました。本を読み進めていく内に、僕の心の中で何かが変わっていく気がしました。今まで宗教というと、自分の中で壁を作ってしまっていましたが、今回の経験を通して、やり方が多少違っていても、幸せになりたいという気持ちは最終的にはみんな変わらないのだと思いました。今までの宗教に対するグループ分けのような考えを改め、他の宗教のお話を聞かせていただくのもいいなと思えるようになりました。

修学先生のようにはできませんが、日々の生活のなかで少しでも人助けをさせていただきたいと改めて考える機会をいただきました。正修先生、今回は貴重なお話、そして『日本の福祉を築いたお坊さん』の本をくださり、ありがとうございました。幸せの種をまけるように、日々の生活で意識していきたいと思います。

自分に厳しく

小山　ひかり

正修先生のお話を聞き、『日本の福祉を築いたお坊さん』には書かれていないことまで知ることができました。「どんな時でも不幸な人を幸せにする方法を考えること」という杉山先生の教えを受け、ハンセン病患者の救済や親のいない不遇な子の面倒を見るなど、たくさんの人を救ってきた修学先生。中でも私は、親のいない不遇な子どもたちの面倒を見てきたということが一番印象に残っています。

戦後間もない時で、自分たちだけで生活することも苦し

い時、私なら他人のことなんて考えられないと正直思います。本当の子どものように、そして親のように子どもたちに接した修学先生。そんな修学先生に救われた人はどれだけいるのでしょうか。

修学先生は日本福祉大学付属高校が大好きだった、そんなお話を聞いて、修学先生が大事にされていたこの学校に入学できて良かったと思いました。杉山先生の教えである「幸せになるためには幸せの種をまかないとなれない」この言葉をずっと忘れないでいようと思います。辛い、幸せになりたい……これからの人生のなかで、いろいろと思う時があるでしょうが、この言葉を胸に幸せがあふれる人生を送りたいと思います。

私の将来の夢は介護福祉士になることです。修学先生のように、たくさんの人を支え、たくさんの人から信頼される人になれるよう、がんばりたいと思います。今回の正修先生のお話を通して、改めて自分に厳しく生きよう、正しい生き方をしようと心に決めました。

人の役に立つこと

三浦　有咲

修学先生は非行少年に対して、「子どもは変わることができる」と強く信じて、優しく接し、怒るのではなく、良いところを探し、ひたすらほめることをされました。私はとても驚きました。一度罪を犯してしまった人間を簡単にほめてはいけない、と私が考えていたからです。修学先生は違いました。子どもたちにあえて仕事を与えて、人の役に立てる人間になっていけるように後押しをし、人に感謝してもらったり、頼りにしてもらったりすることを毎日の喜びに変えられるように、罪を犯した少年にも生きる意味を作り出していきました。大変すばらしいことだと思います。その修学先生の思いを受け継ぐ日本福祉大学に進学することができるように、これからの3年間、学習に取り組んでいこうと思います。

私は将来、福祉工学の仕事をするか、公務員になるか、現在迷っています。福祉工学を学ぶことで、より快適な一日一日を人々が過ごすことができるような物―ユニバーサルデザインを考えることもしたい、また公務員になって、今の少子高齢化や過疎化の課題を解決すべく、高齢者の人が安心して生活できる施設作りに取り組みたいとも思っているからです。私は修学先生ほど、人を幸せに導くことはできないかもしれません。でも人の役に立つことが、生きるなかで何より大切になってくると思います。今からコツコツと目立たない場所でも、目立つ場所でも、進んで人々を幸せに導くことができるような、そんな人に私もなっていきたいと思います。

幸せの種まき＝一人が一人を

〝何か善いことをしたい〟と絶えず考えるようにしましょう

〝本当に清い心でやっているか。欲でやっていないか〟と心を点検しましょう

大乗山　法音寺

編集後記

先日、月刊誌『法音』を毎月印刷してくださる工場を訪問してきました。コンピュータを駆使して版を作り、インクの色調整をしながら大型の印刷機械を動かし、帳合して製本されるまでの工程を見学しました。私たちが毎月『法音』を手にできるのも、目にふれないところで働くプロの職人集団のお陰と改めて思わされました。「世の中で〝あたりまえ〟ということは何一つありません」という法音寺の教えを痛感した一日でした。

さて、今月は御開山会特集として、参詣された方々の喜びの声を掲載させていただきました。御開山会は信徒一人ひとりが法音寺の使命にふれ、その一員として平和な世の中の実現に向けて新たな一歩を踏み出すことをお誓いする日。それぞれの記事を読むと、多くの方々の感動と決意が伝わってきます。

このことに関しても決して「あたりまえ」なことではないと思います。三先師・日達上人のご守護と山首上人さまのお徳があるからこそ、そして参詣される方々の清い心と、奉仕される方々の細やかな心配りが互いに紡がれてこそ実現するのだと思うのです。

日々、私たちは目にふれない場所にいる多くの方々の働きによって支えられていて、そうした人たちに思いを馳せる想像力が求められています。〝良い教えの話を聞く〟のは、〝感謝のアンテナ〟の感度を高めるため。与えられた使命をしっかり見定め、これからも〝良い教えの話〟を世に送り出したいと思っています。

ひまわり #55

ごほうび

竹中 淳

キミらは ほめてもらうために掃除してたのか？
え？
つまり ほめてもらえなきゃ一生懸命 掃除しないんだな
せっかくきれいに掃除したんだ ほめてもらえなきゃ寂しいだろ？
そうだよ なんだか損した気分だよ
だから！ ほめられなきゃやらないってことじゃないか！
うう… なんだぁ アイツ ムカつく～
イチローくん ハンカチ落ちた
ハイ！
イチローくん 拾ってやったのに「ありがとう」くらいいいなよ

キミは ボクに「ありがとう」って感謝されたくて親切にしたんだ
へ？
別にそんなんじゃないよ!!
ホントになんてヤツだ!!
きのうもね消しゴム貸しても「ありがとう」の一言もいわないんだよ
もう～イチローくんには何もしてやんないぞ！
そうだそうだ
蓮 コンビニまでお醤油買いに行ってきてよ
えなに？
チョコ買っていい？
しょうがないわね～五十円よ
KMart

きょう
イチローくんが
いったことが
ず～っと
気になってた

ほめてほしいから
一生懸命
やるんだろ？

「ありがとう」って
感謝されたくて
親切にしたんだろ？

ボクはこれまで
お小遣いやごほうびが
欲しくて家の手伝いを
していた

今も
おつかいに
行くからって
お小遣いを
ねだっちゃったな…

ただいま

どうしたの？
まっくらじゃん

停電なのよ
困ったわ

でも
よその家は
電気ついてるよ

あら　本当だ
どうしたのかしら
うちだけ…

父さん　まだ帰ってないしどうしましょ
う～ん なんか長いもの…
ばあちゃんそれ！いい？
孫の手？
大丈夫かい？感電しやしないだろうね
あ
ついた！
よかったわ～！
やったぁ!!
ブレーカーが落ちてただけ
エアコンやレンジなんか いっぺんに使ったからだよ
助かったわ～どうなるかと思ったわ
え
たいしたもんだねぇおまえがいてくれて本当によかったわ頼りになるのね男の子は！

みんなの顔も　今まで
見たことないくらいの
笑顔が
輝いていたし

家中がキラキラ
明るく見えた

電気がつくように
しただけなのに
なんだろう
この気持ちは…

今まで　もらった
ことのない
すっごく大きな
ごほうびを
もらった気分だ

大滝くん
はーい

佐野くん
…

休み？

佐野くん
杉山くん
瀬川さん
三人
お休み？

みなさん
体調には
気をつけてね

そうじ当番
2班

あ

ヒヒヒッ
放課後
あいつ
驚くぞ

なに？

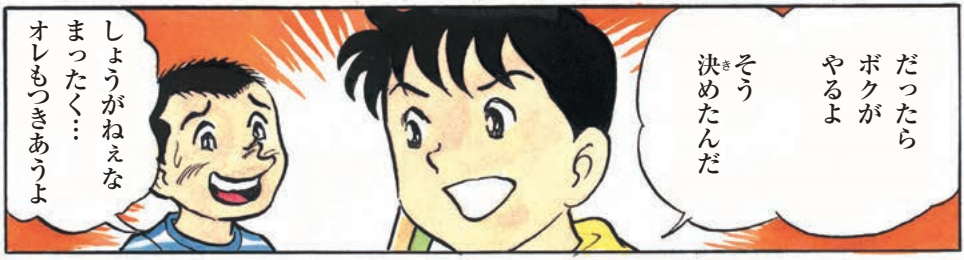
あのな
…

え!? ボク一人?
掃除当番 三人も休み? イチロー君だけ?
一人じゃ 無理だろ
タケルくん 手伝ってやれば?
おれはきのう 掃除当番 だったんだぞ やだよ
だって タケルくん ひま でしょ
オレは遊ぶ 約束してんの! おまえこそ 手伝ってやれよ
わたしは 今日ダメよ
イチロー! 悪いなぁ じゃあな
…
職員室
あれ? 蓮 どこ いった?

よっ
4の3

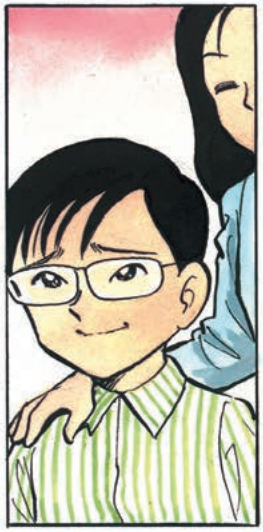
何してんだ？オレたち当番じゃないんだぞ
今日は早く帰っていっしょに遊ぶっていっただろ？

でも掃除当番イチローくん一人じゃないか
だれかがやらなきゃなんないんだよ


だったらボクがやるよ
そう決めたんだ
しょうがねぇなまったく…オレもつきあうよ

で…イチローはどこ行ったんだ!?

あっいた
なにしてんだよ！掃除するぞ！



おしまい

法音寺関連書籍のごあんない

青山書院刊　東京都杉並区西荻北5-4-1

妙法蓮華経略義　鈴木修学 著

A5版上製・863頁・定価6,000円（税込）

無量義経略義　鈴木修学 著

四六版上製・165頁・定価2,000円（税込）

仏説観普賢菩薩行法経略義

鈴木修学 著

四六版上製・165頁・定価2,000円（税込）

撰法華経略義　鈴木修学 著

A6版皮製・101頁・定価700円（税込）

仏教聖語の解説　鈴木修学 著

B6版・230頁・定価1,800円（税込）

道徳と宗教　鈴木修学 著

B6版・209頁・定価1,000円（税込）

教育まんが

B5判　平均64頁　定価各600円（税込）

八正道の話　因縁の話　菩薩行の話
功徳の話　お彼岸のはなし　十界の話
十王の話　定価1,000円（税込）

― その他多数。お問い合わせください。

山喜房佛書林刊　東京都文京区本郷5-28-5

鈴木修学先生の南無妙法蓮華経

浅井圓道 著

四六版上製・202頁・定価1,600円（税別）

大乗山法音寺三徳開教百年史

（1）安立大法尼の時代
A5版・490頁・定価4,000円（税別）

（2）宗玄大徳の時代
A5版・516頁・定価4,000円（税別）

（3）御開山上人の時代
A5版・628頁・定価6,000円（税別）

（4）第二世日達上人の時代
A5版・714頁・定価7,000円（税別）

（別巻）仏教感化救済会の信仰
A5版・272頁・定価3,000円（税別）

中央法規出版刊　東京都台東区台東3-29-1

福祉を築く　―鈴木修学の信仰と福祉―

西山茂・秦安雄・宇治谷義雄 共著

A5版・224頁・定価3,200円（税別）

日本の福祉を築いたお坊さん

星野貞一郎 著

新書版・160頁・定価800円（税別）

※本書の著者印税のすべては、著者のご意志により「あしなが育英会」に寄付されることになっております。

まんが・法音寺物語

法音寺広報委員会　企画

上＝安立大法尼の時代
中＝宗玄大徳の時代
下＝御開山上人の時代

B5版・96頁総カラー・定価各巻1,000円（税別）

仏教タイムス社刊　東京都新宿区市谷田町2-7

大乗山法音寺の信仰と福祉

西山茂・小野文珖・清水海隆 共著

A5版・205頁・定価3,200円（税別）

凡夫を菩薩に転ずる僧伽

仏教タイムス編集部

A5版・132頁・定価800円（税込）

大乗山法音寺の源流と近現代仏教福祉

浜島典彦・清水海隆　共著

A5版・60頁・頒価500円（税込）

お問い合わせは法音寺寺務局、又は各支院・布教所にどうぞ…

自説誓言

一人を導く功徳は広大です
是非一人は導きましょう

写真・法音寺大本堂
《山首上人の大荒行御成満奉告法要の砌》

日蓮宗大乗山 法音寺

〒466-0832 名古屋市昭和区駒方町3-3　TEL.052-831-7135
http://www.houonji.com　FAX.052-831-9801

講話日
毎月7日・17日・27日
午後1時30分

法音寺の社会福祉・教育事業

徳を昭（あき）らかにし、徳を以って世間を照らす

社会福祉法人　昭　徳　会

■児童養護施設
駒方寮
名古屋養育院
名古屋若松寮

■障がい児入所施設
小原学園

■障がい者支援施設
小原寮
泰山寮

■特別養護老人ホーム
安立荘
高浜安立荘
小原安立

■障がい福祉サービス事業
授産所高浜安立

■軽費老人ホーム（特定施設入居者生活介護事業）
ケアハウス高浜安立

■軽費老人ホーム
ケアハウス大阪安立

■養護老人ホーム
養護老人ホーム高浜安立

■自立援助ホーム
慈泉寮

■保育所
駒方保育園
光徳保育園
天王保育園

法人本部　〒466-0832 愛知県名古屋市昭和区駒方町4-10　TEL（052）831-5171
http://www.syoutokukai.or.jp

我が如く等しくして異なること無からしめんと欲す

学校法人　日本福祉大学

■日本福祉大学大学院
■日本福祉大学
■日本福祉大学中央福祉専門学校
■日本福祉大学付属高等学校

法人本部　〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6　TEL（0569）87-2211
http://www.n-fukushi.ac.jp

法音・平成29年7月号・No.573・平成29年7月1日発行
発行所・日蓮宗法音寺／制作・法音寺広報委員会
非売品／印刷・（株）一誠社